

2024年3月期第2四半期 決算説明会 主要質疑

Q.当初予想に対してセグメント別営業利益で65億円の減益、うち79億円が機能製品セグメントでの減益である。製品別にどのくらいの減額があったのか。

A.製品別の利益は開示していないが、影響の大きい順番で言えば、一番がPVDFであり、二番目がPPSの持分法利益である。

Q.PVDFの特殊ポリマーが強みということだが、この特殊ポリマーの優位性や参入障壁は。またPVDF以外の素材に対してはどうか。

A.懸濁重合という製造法をとっており、不純物が少なく、密着性が高く、安定性に優れたものを製造できる。特に高い性能を求められる三元系LiBにおいて、高い優位性を発揮している。当社特殊ポリマーは特許等にてカバーされており、模倣は難しい。

三元系LiB正極材バインダーにおいては、高電圧下の入出力特性に優れたPVDFが使用されており、PVDF以外はあまり使われていないと考える。

Q.PVDFの利益が低下しつづけているが、いつがボトムとなりそうか。

A.LiB向けPVDFの販売価格は原材料価格と連動しているが、この原材料価格は昨年2月にピークを迎えた後、急速に下落が続いている。原材料価格が高い頃に生産した製品在庫の払い出しが続いており収益性が悪化しているが、この払い出しは今年度いっぱいできると見込んでいくと見込んでいる。

Q.2024年度、2025年度のPVDFの販売数量は、どのように変化するか。

A.もともとは2023年度後半から回復する見立てであったが、欧州を中心に非常に厳しい状況となっている。2024年度のどこかで回復するものと思われるが、どのタイミングとなるか見通しが難しい。米国では2024~2026年度の3年間、LiB生産能力増強に対して非常に大きな投資が実施される。北米市場はインフレ抑制法の観点からも三元系LiBがメインで当社の特殊ポリマー販売政策とも合致しており、2025年度以降はかなり確実に数量を伸ばしていけると考えている。

Q.リン酸鉄LiB市場での競争についてどう考えるか。

A.現在LiB市場の半分は中国であり、中国のメインはリン酸鉄LiBである。当社のメインは三元系LiB、欧米市場としつつも、リン酸鉄LiBもしっかり取っていくことで成長していきたい。

Q.今の事業ポートフォリオを、中長期的にどうしていくか。

A.事業ポートフォリオの判断では、収益性、市場成長性、製品差別化、社会貢献性、を非常に重視している。この10年、事業継続について1つ1つ判断してきたが、これを継続して進めていく。外から見て、クレハグループはここに特化し、ここを成長分野として伸ばしていく、ということがより分かる形にする。

以上